

町自連まつえ

平成26年1月1日 発行 第17号

■発行／松江市町内会・自治会連合会（略称：町自連まつえ）

ごあいさつ

松江市町内会・自治会連合会

会長 佐々木 武男



新年おめでとうございます。
年頭に当たり
皆様のご多幸
とご活躍をご祈
念申し上げます。

昨年度、松江市は高速道路尾道松江線の中国縦貫自動車道への接続、伊勢神宮の式年遷宮、出雲大社の大遷宮などの影響で多くの観光客を迎える年となり新たな展開を見る年となりました。一方、高齢化は更に進み、社会構

造の変化は、多くの課題を生み出しています。
また、万一の原子力発電所災害への備えは喫緊の課題として取り組まねばなりません。昨秋十月二十三日、福島の事故を踏まえて島根県、松江市で広域避難先に指定された「益田市」への避難地区の避難先視察に参加いたしました。このことについて、いくつかの点について記したいと思います。

①基本的姿勢：先方にお願いに行く視察であり、感謝の気持ちを持ちなが

ら課題を見つけ解決の方法を考える。

②避難行動はできるだけ単純な方法を考える。

③避難先での自ら「コミュニティ」をどう構築するか。

をいただき、引き続き市政運営を担わせていただきました。施策の展開にあたっては、その内容を分かりやすくお伝えするとともに、描くストーリーを明確にしながら、皆様と協働して進めてまいります。

松江市を取り巻く情勢としては、原発の再稼働判断、合併算定替えの廃止、そして尾道松江線の全線開通による広域連携という乗り越えなければならない三つの課題がございます。この課題に対応するため、ものづくり産業を地域経済の柱にすることや、観光交流人口の拡大、安心安全な都市づくりなど、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は市民の皆様からご負託

④益田市の受け入れ体制は、大変よく整えられ配慮されていました。先方との交流を、今後どのように進めるか。相互理解を進めることが大切だと思います。

このためには、平素の町内会・自治

会活動の重要性を改めて痛感いたしました。殊に、未加入世帯へのアプローチは困難な課題ですが、全市民の理解を得て進めねばと考えます。

しっかりとした町内会・自治会活動を、現状を嘆くのではなく、知恵を出し合い、進めることができが安全・安心の社会を作ることにつながると思います。市民の皆さまの一層のご協力をお願いいたします。

など、七つの挑戦を掲げました。この挑戦を着実に実施していくためには、二十年後の将来を見据えて策定した「平成の開府元年まちづくり構想」について、町内会・自治会をはじめとした様々な分野の市民のつながりや組み合わせにより、共に創る「共創」によって実現させていくことが必要です。

「松江は松江らしく」未来を切り開き、自分たちの持つ資源を最大限に活用し、「世界にふたつとないまち」をつくりあげるため、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、年頭のご挨拶いたします。



松江市長挨拶

松浦正敬

新春を迎え、

市民の皆様には

ますます健勝

のこととお慶び

申し上げます。

平素から各町内会・自治会の皆様にご協力をいたいた、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

厚く

さて、昨年は市民の皆様からご負託

今年も様々な課題に取り組んでまいりますので
よろしくお願ひいたします。



寺本 修己
（常任理事
美保関地区）



熊谷 和恭
（古志原地区）
副会長



後藤 晃一
（竹矢地区）
副会長



田中美知夫
（秋鹿地区）
副会長



三島 健治
（城西地区）
副会長



佐々木武男
（雑賀地区）
会長



久保田明雄
（理事
川津地区）



勝部 廣三
（理事
玉湯地区）



石倉 國男
（监事
津田地区）



大野 美雄
（监事
城北地区）



福田 安信
（监事
生馬地区）



佐々木省二
（监事
城東地区）



松本 光弘
（常任理事
朝日地区）



藤原 二郎
（理事
島根地区）



松浦 勉
（理事
朝酌地区）



井上 寛巳
（理事
持田地区）



松浦 正明
（理事
東出雲地区）



吉岡 誠一
（理事
宍道地区）



石倉 憲昭
（理事
八雲地区）



安部 吉輝
（理事
八束地区）



龜城 幸平
（理事
鹿島地区）



月坂 守保
（理事
本庄地区）



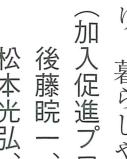
花谷 耕三
（理事
古江地区）



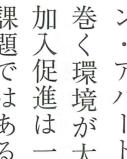
邦典 荒木
（理事
乃木地区）



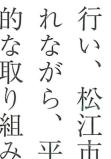
今井 隆良
（理事
白潟地区）



（加入促進プロジェクトチーム）
後藤暁一、石倉國男、大野美雄、
松本光弘、小数賀安富、石倉憲昭



近年、少子高齢化の進展やマンション・アパートの増加など、地域を取り巻く環境が大きく変化しております。加入促進は一朝一夕には解決が難しい課題ではあるが、地道な取り組みを行い、地域コミュニティの活性化を行ったり、暮らしやすいまちを目指したい。



（加入促進プロジェクトチーム）
後藤暁一、石倉國男、大野美雄、
松本光弘、小数賀安富、石倉憲昭

その中で、市民を対象とした「市民活動についての意識調査」や単位自治会を対象とした「町内会・自治会活動アンケート」また、特例市等への「加入促進に関する調査」や二十九地区連合会長へのヒアリングなどを実施し、市全域及び特性の異なる地域でそれぞれ行うべき取り組みについて、本年四月に中間報告書としてまとめた。

これを踏まえて今年度は、先進的な加入促進活動を行っている大阪府八尾市への視察（視察研修の記事参照）を行い、松江市でもできることを取り入れながら、平成二十六年度からの具体的な取り組みについて、最終報告書を取りまとめてることとしている。

加入促進の取り組み

町内会・自治会は、地域活動の主役を担ってきたと自負しているが、その加入率は、今年度六十五%であり、減少傾向が続いている。その現状を打破するため、昨年度から加入促進プロジェクトチームを編成して検討を重ねてきた。

活動紹介

平成二十一年度視察研修

自治会加入促進と防災

八尾市の町会加入促進活動

自治会は隣近所の連帯で成り立つて居る人が増えると隣に誰が住んでいるかも分からなくなる。災害が起ると個人の力は弱い。何かあれば地域の皆で支え合おう。こんな思いを込めて今年は大阪府八尾市に出掛けた。



生駒山の麓で河内平野の田畠が広がっていた八尾市は昔の面影が消え

て、人口二十七万人の近代都市に変貌した。人が増えると昔からの河内気質「ほっとかれへん」の近所付き合いが

次第に弱まり、これではいけないと危機感を燃やした市役所と自治会が協力して新しい住民に自治会への加入を働きかけて、新しいコミュニティ作りを始められた。

面倒見が良く気さくで飾らない河内モンの近所付き合いを新しい住民にも広げ、まちの美化や防災防犯など町中が一つになった支え合いの輪に新しい住民も加わってもらおうという試みだ。誰もが一人ぼっちは寂しい。自治会は、他から来て不安な気持ちでいる住民に優しく声をかけて祭りや盆踊りに誘い、市の広報文書を配るなど身近な親切から付き合いを始められている。

平成二十三年秋から始まつた活動は自治会だけでなく市役所も一緒になって取り組まれ、転入者が多い三月末には市役所の窓口に案内ブースを開いたり、新しいマンションの建設が計画される」と市の建設部が入居予定者と建設業者

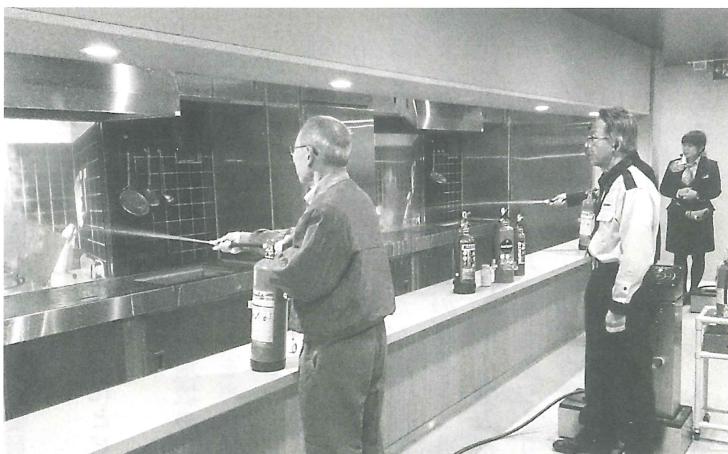
の会合で自治会結成を働きかけたりと熱心に取り組まれる様子が語られた。

松江市の自治連も昨年からプロジェクトチームを作り加入促進を図っているが、今回の視察を参考として活かしたい。

阿倍野防災センターでの

防災体験

大阪市立阿倍野防災センターは震度七の大地震の体験や火災の防止、煙が出る建屋からの脱出、消防器による初期消火、一一九番電話の通報など災害時の様々な疑似体験と防災訓練を行う



機会があれば、是非皆さんもご家族で一度体験されることをお勧めしたい。大変有意義な勉強になり、翌日の朝から松江市で行われた各地区の防災訓練にも早速役立つことができた。

(視察研修プロジェクトメンバー)

福田安信、石倉憲昭、松浦正明

防災センターで、全国から研修に来られる。



二団体合同研修会の報告

毎年実施されている地区社会福祉協議会会長会、公民館長会、町内会・自治会連合会の三団体合同研修会が八月十九日（月）午後、サンラボーむらくもで開催されましたので紹介します。

私たちが安全・安心に暮らし学び続けることが出来る地域を創造し、実践するためには、我がまちを知ることによつて地域課題を発見することだと思います。そういう視点で、神戸学院大学総合リハビリテーション学部 藤井博志教授を招いて「まち創りのためにまちを知ろう」と題して講演をしていただきました。

【講演内容】

◎新たな地域づくりを考える時代
・少子高齢化と九十五年からの社会的格差と貧困

- ・単身化社会と「家族」「コミュニティ」のあり方
- ・社会的孤立から社会的つながりへ個人・家族と外界をつなぐ「地域」のあり方の大切さ
- ・元気な地域、地域福祉を判定するキーワード「閉じてているか」「開いているか」

◎「つながり」と地域福祉

目標として
誰もが／住み慣れた場で／その人

らしく暮らせる／地域社会としくみを／みんなで／つくる

◎地域づくりの視点

- ・ご近所づくりないとラジオ体操の魅力（普段の集まりを地域福祉の場に変える）
- ・地域食堂とは「食」が集まる吸引力
- ・障害者施設とのつきあいとリーダーの姿勢（誰も排除しない）
- ・地域ニーズを発見して持ち寄る
- ・居場所づくりの上手さ
- ・ご近所付き合いと福祉性（つどうことと見守ること……家を開く）
- ・情報は住民がつくる
- ・ネットワークと専門職との関係

◎学ぶ人を元気にする重層的な「地域」の役割と視点

- ・自治会を補完する「地区社協」
- ・公民館の意義
- ・地域福祉における民生・児童委員の活動とその特質

◎地域を見る視点

- ・「気にかかる人」とその人の困りごと
- ・地域を見る視点

- ・そのことを「気にかけている」世話焼き（団体）の存在

- ・自治会の福祉度と民生・児童委員とのつながり
- ・公民館区域での地域課題化とビジョン化の課題（計画）
- ・最も大切な視点は個人や地域の元気の素、できることを再発見する

- 以上が講演の骨子です。
- 今までに色々なまちづくりについての講演を聴いてきましたが、今回は我々が住んでいる地域の環境づくり（地区社協、公民館、保育所、老人福祉施設等）そして、人々の環境づくり（見守り合いと支え合い、自治会、民生児童委員など）が必要であり、それらをうまく活用してつなげていくことが、まちを知ることであり、まちを創っていくことだと学びました。

（事業担当者）

三島健治、佐々木省一、勝部廣三



このところ異常気象があります顕著になり、局地的な豪雨や記録的な猛暑など災害が頻発しております。中でも、フイリピンの被害は想像を絶するものでした。わが国でも伊豆大島の土石流災害、島根県でも津和野の激甚災害など、もはや想定外という言葉は通用しない状況になっています。

このような災害に備えるための訓練・研修の必要性は勿論ですが、日頃のコミュニケーションづくりは最も重要な要素だと思います。そういう顔の見える人間関係が、いざという時に力を發揮するのです。ところが、その基盤となる自治会への加入率が年々下降しております。

そこで、松江市町自連としては、自治会加入促進が喫緊の課題と考え、昨年よりプロジェクトチームを作り、検討を重ねています。その一環として、今年の視察研修は、自治会加入促進についての先進地・八尾市を訪問し、その取り組みについて伺いました。

今年の「町自連まつえ」は、そうしたことをテーマの中心として編集しました。

編集後記

（編）集「町自連まつえ」広報担当者
熊谷 和恭・松本 光弘
町自連事務局 五五一年六九
(松江市市民生活相談課内)